

# Progress Report of Long-term Community Child Health Study, From Tohoku Medical Megabank Project

Kikuya M et al. Tohoku Medical Megabank Organization, Tohoku University, Sendai, Japan

## 東北メディカル・メガバンク事業-地域子ども長期健康調査の進捗報告-

菊谷昌浩<sup>1,2</sup>、宮下真子<sup>3</sup>、山中千鶴<sup>1</sup>、石黒真美<sup>1,2</sup>、佐藤ゆき<sup>1,2</sup>、小原拓<sup>1,2</sup>、目時弘仁<sup>1,2</sup>、中谷直樹<sup>1,2</sup>、長神風二<sup>1,2</sup>、富田 博秋<sup>1,2</sup>、清元秀泰<sup>1,2</sup>、菅原準一<sup>1,2</sup>、寶澤篤<sup>1,2</sup>、布施昇男<sup>1,2</sup>、鈴木洋一<sup>1,2</sup>、辻一郎<sup>1,2</sup>、呉繁夫<sup>1,2</sup>、八重樫伸生<sup>1,2</sup>、山本雅之<sup>1,2</sup>、栗山進一<sup>1,2,4</sup>

1東北大学 東北メディカル・メガバンク機構, 2東北大学 大学院医学系研究科, 3東北大学 大学院薬学研究科, 4東北大学 災害科学国際研究所



### [Abstract]

The purpose of this study is to address the health needs of children who are at risk of increased illnesses or a worsening of symptoms following the Great East Japan Earthquake. We conducted a questionnaire survey from June 2 to June 27, 2014 in Miyagi Prefecture. The questionnaire was distributed to 28,159 children through public primary and junior high schools, and 6,451 questionnaires were returned. Children who experienced tsunami had higher prevalence of symptoms of eczema in the past 12 months (24.5% vs. 20.5%,  $P=0.007$ ), and had higher prevalence of difficulty in daily lives defined by Strengths and Difficulties Questionnaire total score of  $\geq 16$  point (18.4% vs. 14.8%,  $P=0.006$ ). We will continue the survey to schoolchildren to provide the aggregate findings.

### [要旨]

本調査の目的は東日本大震災後に増加が懸念される子どもの症状を調査し、必要に応じて支援を行うことである。2014年度は、6月2日から6月27日までを調査期間としてアンケート調査を実施した。公立小学校・中学校を通じて28,159人の子どもたちにアンケートを配付し、6,451人から回答を得た。津波を経験したと回答した子どもではアトピー性皮膚炎の症状をもつ子どもの頻度が高値であった(24.5% vs. 20.5%,  $P=0.007$ )。さらに日常生活の上での困難さを抱える子どもの頻度も高値であった(18.4% vs. 14.8%,  $P=0.006$ )。引き続き調査を継続し、知見を集積していく予定である。

### [背景と目的]

- 東北大学は、東日本大震災からの復興を目的として東北メディカル・メガバンク機構を創設した。
- 本機構では宮城県民の各年代の長期健康調査を実施している。その一環として小中学生を対象に実施している「地域子ども長期健康調査事業」の平成26年度の進捗に関する経過報告を行う。

### [調査項目]

#### アンケート調査：質問票

- アトピー性皮膚炎、気管支喘息  
International Study of Asthma and Allergies in Childhood (ISAAC)
- 日常生活の上での困難さ  
Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ)

#### 支援

- アトピー性皮膚炎、気管支喘息  
受診勧奨
- PTSD, 発達障害, ADHD  
電話相談、面談、受診勧奨等

### [調査詳細]

#### <アンケート調査>

- 場所：公立の小学校188校、中学校92校、支援学校9校（赤枠の地域）  
（前年度までに調査が完了した地域、参加希望がない地域は除外）
- 対象：上記の学校の小学2, 4, 6年生と中学2年生 計 28,159人
- 時期：2014年6月2日～ 6月27日

#### [支援]

子どもの健康上、相談・支援の必要があると判断された場合に、保護者の希望に応じて結果を郵送すると共に、本調査の対象者への支援窓口をお知らせする。



### [結果, Results]

	津波経験有り With Tsunami experience N=913	津波経験無し Without Tsunami experience N=5538	P
気管支喘息（12ヶ月期間有症率） Asthma	N=107 11.7%	N=536 9.7%	0.065
アトピー性皮膚炎（12ヶ月期間有症率） Eczema	N=224 24.5%	N=1,136 20.5%	0.007
日常生活の上での困難さ SDQ total score $\geq 16$ point	N=168 18.4%	N=820 14.8%	0.006

### [要約と考察]

- 震災から3年経過したが津波経験は、アトピー性皮膚炎の有症率およびSDQ尺度有所見の高値と関連があった。
- 有効回答率は22.9%と必ずしも高くないので結果は慎重に判断すべきである。
- 災害とアトピー性皮膚炎に関する文献は成人がほとんどであり、地域の小中学生を対象として中長期的に継続している調査はほとんど無い。

[結語] 震災の影響は、3年経過した現在も、小中学生において継続していることが示唆された。来年度も引き続き調査を実施する。